

月刊

エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2016年(平成28年) 8月号 第24号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数
http://www.koureisha-jutaku.com

—Elderly Press Newspaper—

第19回 投票できなかったMCIの父親

先日、軽い認知症状のある父親を選挙の期日前投票に連れて行った時のこと、付き添う家族が介助して投票所へ入ろうとしたところ、係の人に制止され、本人だけが投票できずに帰ってきたという話を聞きました。

選挙も当人には「お出かけ」

期日前投票の手続きは、選挙当日とは違いその場で理由書に記入する手間がありません。本人の住所、氏名や当日来ることをできない理由に印をつけるような簡単なものですが、父にとっては初めてのことで、突然、見知らぬ係員から書面を一人で書くように言われて驚き、混乱してまいったようです。

普段から政治に関心が高く、今回の選挙でも意中の候補者を決めて投票に行ったのですが、予期せぬ出来事にパニックを起し、「自分の住所も書けなくなってしまった」と、すっかり自信を無くした様子で、家族も大きな

安全! 快適! 介護旅行



SPIあ・える倶楽部社長
篠塚 恭一

1961年千葉市生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立、ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他、(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

挫折感を覚えたようです。

全国の認知症患者数は約500万人、2025年には今の1.5倍、700万人を超えると推計されています。さらにこの父親のような軽度のMCI患者を加えれば1300万人、実に国民の一割以上が認知症患者という社会になります。ところが、「障害者差別解消法」が施行されても、政治の入口がこの有様では情けないと思います。

普段ベッドの上で過ごすことの多い人にとっては、トイレに行くのも旅だと語ったのは医師の鎌田實さんでした。

この家族は、趣味の釣りや暮会所に行くことをあきらめ、一日中テレビの前に座って過ごすことの多くなった父親を心配して、ことあるごとに外に連れ出そうとしますが、本人に関心のないところへ行くのはとても嫌がります。そうした中で、選挙はちょっとしたお出かけで、本人が行きたい場所でした。

こうした人の思いにより添うことから、小さな旅へのチャレンジがはじまるのだろうと思いました。



▲富士を眺めて温泉入浴、トラベルヘルパーを信頼して楽しんで頂きました